

3 . 九州ブロックにおける重点事項

(1) 安全な国土・危機管理の充実

近年の土地利用の変化や都市の機能高度化、高齢者等の災害弱者の増大により、災害が発生した場合の被害の拡大が懸念される。このため、大規模な自然災害の発生に備えるとともに、防災に対する社会的需要の質的・量的な高度化への対応を図る。

台風や集中豪雨に伴う風水害、高潮等の自然災害や大規模地震や火山噴火等の大規模災害に備えた国土づくりに向けた防災や国土保全事業を推進するとともに、リダンダンシーに優れた社会基盤を確保する。

併せて災害を未然に防除し、又は被害を最小限にとどめるため、防災計画の策定、防災ボランティアの育成等災害時における安全確保に向けての社会システムの構築を図る。

加えて、陸・海・空の交通に関する安全を確保するとともに、事故やテロ等に対する危機管理体制を強化し、事故やテロ等の未然防止と被害軽減を図る。

さらに、北部九州などの湧水頻発地域の解消、良好な水環境の保全や水質事故への迅速な対応等により安全かつ安定的な水資源を確保する。

【重点目標】 災害を未然に防止するとともに被害を最小限にとどめ、迅速に復旧できるようにする。

【重点目標】 災害やテロに備えて危機管理体制を充実する。

【重点目標】 陸・海・空の交通の安全性を高め、事故やテロの未然防止と被害軽減を図る。

【重点目標】 水不足に悩まされることなく安全で安心な水の確保を図る。

(2) 循環型社会に向けた社会基盤づくり

九州を育む恵まれた自然環境は、暮らす人、訪れる人に広く愛され活用されつつ、次世代に継承されなければならない。このため、社会資本の整備に際しては地域の生態系や景観に配慮するとともに、自然環境の再生・創出に取り組む。また、有明海・八代海をはじめとする閉鎖性水域等については、藻場・干潟の造成、流域の水循環の改善及び海洋汚染の防止等総合的な施策によって良好な水域の保全・創出に取り組む。

社会資本の整備に当たっては、環境負荷の低減に配慮し、建設廃棄物の再資源化・縮減、再生資材の利用促進等を推進する。また、静脈物流システムの構築等を支援する基盤整備に取り組み、循環型社会の形成を図る。

さらに、地球温暖化防止や生活環境の改善に向けて、都市部における交通円滑化やTDM(交通需要マネジメント)、モーダルシフトの推進、低燃費車・低公害車等の普及等による環境負荷の少ない交通体系の形成等を促進する。

【重点目標】 自然環境を保全し、新たな再生・創出に取り組む。

【重点目標】 廃棄物等の排出抑制、循環的な利用の推進を図る。

【重点目標】 環境負荷の低減に資する交通基盤整備を強化する。

(3) 拠点都市の機能高度化

適度に分散する拠点となる都市と多自然居住地域とが近いという特徴を活かして、双方のメリットを享受できるようにするため、拠点となる都市の機能を充実し、魅力を高めることが重要である。

このため、多くの人を訪れる都市観光や研究開発型・知識集約型産業等の立地を支援するための都市機能の充実や中心市街地、工場跡地等の都市の再整備による新たな機能の充実を図る。

また、都市内の様々な人や物の動きを支えるため、都市の骨格となる道路の整備や鉄道、バス等の公共交通の結節機能の強化、ITの活用等による交通の利便性の向上を図り、併せて公共施設や交通基盤、住宅・建築物等にユニバーサルデザインの導入等を図る。

さらに、公園の整備や沿道等における緑化の推進、港の水際線の開放により、安らぎや潤いのある都市空間を形成し、また、密集市街地の改善や建築物の耐震化、下水道の普及促進及び電線類の地中化等により、安全で快適な居住環境の形成を図る。

【重点目標】 中心市街地の活性化等により、都市の顔となる活力あるまちづくりを進める。

【重点目標】 道路渋滞の軽減等により都市内交通の利便性の向上を図る。

【重点目標】 都市の緑化の推進や防災安全性の向上等により、安全で快適な潤いのある都市・居住環境の整備を図る。

(4) 多自然居住地域の生活基盤づくり

多自然居住地域の機能や魅力の向上を図るため、単独の行政区域内で整備することに限界がある施設や拠点となる都市の高度医療・高度教育施設の機能も享受できるようにするため、隣接市町村間や拠点都市（人口30万人規模の都市）へのアクセス向上を図る。特に都市的サービスを受けにくい山村地域、離島地域及び半島地域では、定期船の就航率向上や道路、高度情報通信基盤などの整備によって地理的・自然的制約からの感覚距離を縮め、安心して暮らせる生活空間を形成する。

中小都市については、「個性を活かした多様な地域」に向けて、地域の歴史や文化、伝統など培われた個性を活用し中心市街地の魅力を高め、また、海、山、川の豊かな自然を保全・活用しながら個性ある多様な地域を形成することなどにより、ゆとりある癒しの空間の形成を図る。

高齢化・過疎化が急速に進行している多自然居住地域においては、日常的な生活基盤としての社会資本整備等にユニバーサルデザインの導入等を図るとともに医療、教育、福祉など基礎的なサービスを楽しむための環境づくりを支援する。

【重点目標】 拠点都市との交通・情報アクセスを充実する。

【重点目標】 自然・歴史等を活かしたゆとりのある居住地域を創造する。

【重点目標】 高齢化・過疎化に対応した生活基盤の確保を図る。

(5) 広域交流ネットワークの確立

九州の力強い産業経済の発展と地域の日常生活を支える交通体系の充実が必要となっている。そのため、九州内を広域的に活動できるよう、基幹都市（福岡・北九州、大分、佐賀・筑後、長崎環大村湾、熊本、延岡・日向、宮崎、鹿児島）間の3時間圏域の確立を目指すとともに、九州外との交流促進に向け、主要な地域拠点としての機能を果たす港湾、空港等についてその機能を強化し、道路、新幹線、港湾、空港等の連携により広域交通ネットワークを形成する。

また、個々に魅力を高めた多自然居住地域や都市の機能を互いに結ぶアクセス道路・海上ネットワークの整備及び情報通信ネットワークの構築を支援することにより交流・連携を促進し、定住及び交流人口の拡大による地域活力の向上を図る。

【重点目標】 産業経済・地域を支えるため、基幹都市間の3時間圏域の形成を目指す。

【重点目標】 交通機関連携による総合的なネットワークの構築を進める。

【重点目標】 地域間の交流・連携を促進する。

(6) 環黄海・東シナ海を中心とした国際交流基盤づくり

アジアとの近接性と長い歴史の中で続けられてきた交流の蓄積という九州のメリットを活かし、環黄海・東シナ海を中心とした東アジア1日交流圏の形成を目指して、国際交流ゲートの拠点機能の強化を図るとともに、域内の循環型広域交通ネットワーク及びアクセス強化を図る。

九州北部学術研究都市整備構想(アジアス九州)等の推進を支援するとともに、これらの広域的で多様な学術・研究交流を通じて、地域における新たな産業展開を促す。

さらに、アジア諸国からの観光客等が、より多くの観光拠点を、より快適に訪問できるような交通基盤を整備する。同時に、美しい自然環境や温泉地、地域産業、伝統産業、都市的アミューズメントなど、九州の素晴らしさを内外にアピールする拠点整備により、人的国際交流の促進や外国人観光客の増加を図る。

【重点目標】 東アジアのゲートウェイ機能を強化し、東アジア1日交流圏の形成を目指す。

【重点目標】 産業から観光まで国際競争力を高める基盤づくりを充実する。